

「尚徳」10月号 第601号 令和4年10月24日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<https://sho.fuzoku.tottori-u.ac.jp/>



題字「尚徳」は、住川英明 地域学部教授 (元校長)

前期終了、後期がスタート

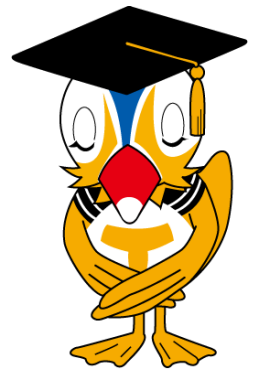
校長 山下博樹

今年も長く続いた暑い日々がひと段落し、つかの間の秋を迎えました。近年、夏の暑さと冬の寒さが際立ち、春秋の心地よい季節が短くなっているような実感があります。地球温暖化の影響もあるのですが、四季の移ろいを楽しむ気持ちは失いたくないものです。

さて、10月は前期が終了し、後期がスタートする時期でもありました。前期終業式、後期始業式は久しぶりに体育館での全校集会となりました。前期終業式では、4月に各自が立てた目標・めあてが出来ているかを確認し、後期にむけて頑張ろうという話を、後期始業式では4月に学校全体の目標としていた「しっかり挨拶をしよう」「時間を守ろう」ということが出来ているだろうかという話をしました。本校ではそれまでなかったチャイムを鳴らすようにしました。それまでは業間や昼休みの休憩時間が終わっても、もたもたと遊んでいるグループが散見されましたが、チャイムを鳴らすようになってキビキビと次の行動に移れる子が増えたように思います。

他方で、挨拶はコロナ禍の影響でマスクをしていることもあるためか、私の知る間でも元気に挨拶をする様子が年々少なくなっているように感じていました。今年前期始業式ではそうした点から、改めて元気に挨拶をしようと呼びかけた経緯がありました。後期始業式の翌日には早速元気に挨拶してくれる子が何人もいましたが、継続してさらにたくさんの元気な挨拶の声があちこちから聞こえる学校になればと思います。

こうした挨拶や時間を守ることなどは、子供のうちに身に付けておきたい基本的な生活習慣ですが、大人になってもこうしたことが苦手な人がいるのも事実です。子供のうちに身に付けておけば何の苦勞もないことでも、大人になって出来ない大変なことはほかにも多々あります。学力だけではなく、立派な大人になるための基礎を身に付けてもらえる6年間となることを期待しています。保護者の皆様には、後期も引き続きご支援・ご協力のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。



校舎内外がきれいになりました

10月16日(日)には、各学年2組の保護者の方を中心に尚徳クリーン活動に参加していただき、ありがとうございました。

今回は学校まわりの草取りと校舎内の床や窓磨きなどをしていただきました。校舎内は、新型コロナウイルス感染防止のため昨年度、一昨年度と実施できませんでしたが、今回実施することができました。子供たちは、気持ちのいい環境で学校生活を送ることができます。



11月の分散参観日について

11月24日(木)、28日(月)に分散参観日を行います。この2日間は、2時間目(9:30~10:15)と4時間目(11:20~12:05)の公開を予定しています。11月になりましたら参観していただく教科等の案内文書を配付します。各ご家庭1名の参観となりますが、ぜひご参観いただきますようよろしくお願いいたします。

学校の様子

*** 4年 森の学校 ***

9月28日(水)に4年生が「森の学校」に行きました。この行事は、日常の学校生活では体験できない活動を通して、自主的な生活態度や集団生活、仲間と協力する力を身に付けること、また豊かな自然に触れることを目的に行っているものです。本来は7月上旬に1泊2日で行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、時期をずらして日帰りで行うこととなりました。

行先は、県中部の琴浦町にある船上山少年自然の家です。日帰りとはなりましたが、ダム湖でのカヌー・いかだ体験や、船上山の麓の豊かな自然の中でのオリエンテーリングを行うなかで、それぞれの活動を仲間と協力して行ったり、自然を満喫したりしました。



*** 終業式・始業式 ***

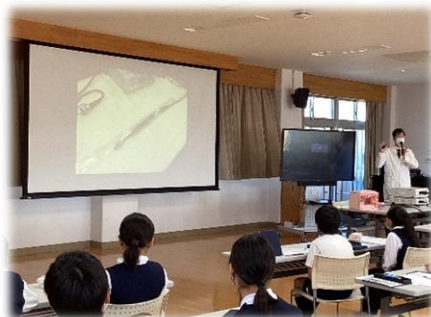
今年度も1年の半分を終え、10月7日(金)に前期終業式を、11日(火)に後期始業式を行いました。

1ページ目でもお伝えしていますが、今回は久しぶりの体育館での全校集会でした。今年度、これまでの全校集会はオンラインだったため、1年から6年までの全校が一堂に会したのは、実はこれまでありませんでした(始業式は2年生から6年生でした)。新型コロナウイルス感染が少し落ち着いてきたタイミングで全校集合同型での儀式ができ、儀式の目的である、普段の学校生活に折り目を付け、気持ちを新たにしたり、厳粛な場でのマナーなどの規律や気品を経験したりすることができました。今後もコロナの感染状況を見つつ、行事を進めていきたいと思えます。



*** 5年 知財創造教育 ***

本校では、鳥取大学医学部の先生と連携し、5年生を中心として、「知的財産創造教育(知財創造教育)」の取組みを行っています。知的財産とは、発明、音楽、美術など、人の知的活動によって生み出されたアイデアや創作物のことです。未来に向けて、これらの知的財産を産み出し、人々の生活や心を豊かにしていくことが求められています。



この取組みの一環で、10月20日(木)に医学部附属病院の植木先生をゲストティーチャーでお招きして、特に「発明」についての考え方を学びました。まず、発明をするためのスキルを、「+」「-」「×」「÷」をもとに説明をしてくださいました。また、実際に持ってきていただいた内視鏡の操作の体験をする中で、アイデアを生かして体に入れても苦しくない内視鏡に改良していくための取組みを聞いたり、そもそも、内視鏡を発明したりそれを改良したりするのは、「人のため」にできることを考えるからであるという話を聞いたりしました。

5年生は、今回学んだことをもとに、自分で発明を考えたり、「誰かのため」に物事を工夫したりする活動へとつなげていきます。